HIROSHIMA・BUNKYO・NEWS

# 広島文教通信 vol.84

志す、こころ輝く。広島文教大学

発行所
広島文教大学
〒731-0295
広島市安佐北区可部東1-2-1
Tel:082-814-3191(代表)
Fax:082-815-6801

CONTENTS

❶ 理事長あいさつ 武田義輝
❷ 学長あいさつ 森下要治
❸ 1号館特集
❹ 学生表彰者報告
❺「かわなみサイクリングロード」ロゴ制作
❻ 大学ランキングで上位にランクイン
❼ 平成29年度 財務報告
❽ 課外活動ピックアップ
❾ 文教の“今”を発信中

## 学園の改革について

学校法人 武田学園
理事長 武田 義輝

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しくはじまる生活に胸を膨らませていることと思います。本学では「心を育て 人を育てる」という教育理念に基づいた教育をしっかりと行っていきますので、皆さんもこの四年間で多くのことを学び経験してください。

### 学園の歴史について

本学園は武田ミキ先生によって昭和二十三年に可部女子専門学校が創設されたのを皮切りに、昭和四十一年には広島文教女子大学が開設されました。今年で学園創立から七十一年、大学開設から五十三年になります。その間、幾度となく困難な時代がありましたが、創設者の教育に対する比類なき情熱で数々の苦難を乗り切り、現在の発展した姿があります。

学園ができた当時は、敗戦の爪痕が色濃く残り、女性が社会進出することに理解が得られ難い時代でした。創設者は当時を振り返った著書の一節で当時の思いを次のように述べています。

「要は心を育てる教育、知識技能の断片的な教育ではなく教育が生活に結び付く教育、女性の性能伸長教育によって、実力ある、役に立つ、間に合う人間の育成に力を入れているのである。」

雨後の筍のごとく洋裁学校ができる中、単に知識技能を教えるだけではなく、教養課程にも担当教員を配置し、いわゆる全人教育を行ってきたのです。

### 男女共学化について

それから七十一年が経ち、女性を取り巻く環境は大きく変わりました。女性が働くことは当たり前となり、女性の管理職や経営者も珍しい時代ではなくなりました。男女の別なく、自分の意見も堂々と言うのが当たり前になりました。

そうした社会環境の変化を受けて、本学では、今年から男女共学へと移行しました。

共学化することで、大学の雰囲気は大きく変わると思います。しかし、本学園がこれまで大切にしてきた学生を中心とした教育、単なる知識技能の習得だけでなくその先へ続く長い人生の礎を築く教育を行うことに変わりはありません。

本学園には教職員に向けた行動規範「それは文教生にとってもっとも良いことですか?」というものがあります。これからも、我々教職員は日々の行動の中で常に学生のためにもっとも良いことは何なのかを心がけて教育をしていきます。

新入生の皆さん、一日一日を大事に、一人ひとりとの出会いを大切にして、悔いのない充実した大学生活を送ってください。

## 改革の実りを思う

広島文教大学
学長 森下 要治

### 改革の四月を迎えて

今年もまた、新たな仲間をお迎えする季節が巡ってきました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのご入学を心待ちにしていました。

そして私たちの大学も、新たなスタートを切る四月となりました。ご存じのように、五十三年間、この地域の女子教育の一翼を担ってきた本学は、高い実績を誇る教育力をそのままに、今年の四月一日をもって男女共学化し、「広島文教大学」として新たな一歩を踏み出しました。またこれと同時に人間科学部初等教育学科を独立させて教育学部とし、これまで人間科学部一学部であった本学が、初めて二つの学部を抱えることになりました。ですからこの四月は、本学にとっても期を画すこととなったのです。

### 改革の実質はこれから

新たな一歩を踏み出すにあたって、男子も含め、多くの新入生の皆さんを迎えることができたのは、実に喜ばしいことです。男女共学化・二学部化を断行した結果として、まずは十分に手応えのあるスタートを切ることができました。

そう、私たちはようやくスタートを切ったのです。改革とは、変えて終わり、変わって終わり、ではありません。改革の真価は、変えた教育が実らせる成果によって示されます。つまり、相応の困難も伴うであろう今後の取り組みこそ、改革の本番と言うべきなのです。

### 皆が手を携え

開学以来のこの大きな改革がスタートを切るまでに、私たちは幾度となく、難題に直面しました。しかしそれらを一つ一つクリアできたのは、準備に関わった教職員の力はもちろんのこと、準備の過程を温かく見守ってくださった在学生・卒業生・保護者の皆さん、地域の皆さんの深いご理解があったからです。これから始まる広島文教大学の教育研究活動が大きな実を結ぶためにも、学生と教職員の、教育学部と人間科学部の、そして地域社会と大学の、緊密な、絶えざる協力が不可欠です。

このキャンパスに集うもの皆が手を携えて前進する―そのような広島文教大学の姿を夢想しています。





## 課外活動ピックアップ

### 部活動「吹奏楽部」

人間福祉学科4年　中廣 彩夏さん

文化展での演奏

私たち吹奏楽部は式典、大学祭、定期演奏会だけでなく、地域のみなさまからも依頼をいただき、たくさんの演奏機会に恵まれてきました。

部活動を通して、先輩・後輩・仲間との繋がり、一つひとつを着実に作り上げる達成感を得ることができました。部長として部員を思いやる心遣いや、より楽しい活動となるよう創意工夫する自主性も養われたと感じています。演奏を聴いてくれた方々の楽しそうな顔や感想の数々も宝物です。大学生として、好きな活動のできる場に所属し、友人と共に何かを創り上げる経験は、今だからこそ得られるかけがえのないものだと思います。

### ボランティア「Animal Happy Project」

心理学科4年　小林 瑞季さん

呉市動物愛護センターでの散歩風景

1年次に“動物が好き”という気持ちだけで広島市動物管理センターに見学に行きました。“動物はかわいい”だけではなく、多くの問題の犠牲になっていると知り、動物を支えたいとボランティアを始めました。

主な活動は、動物管理センターでのお世話、動物の現状を伝えるためのイベント参加、勉強会への参加などです。活動を通じて命の重みを実感し、その大切さを学ぶことができました。また、人前で話す機会が増えて積極性や責任感が増したなど、自分自身の成長にもつながったと感じています。楽しいことも厳しいこともありますが、得るものがたくさんあります。一緒に動物を支えてくれる新メンバーも募集中です!

### 海外栄養学研修「オーストラリアでの食育活動」

人間栄養学科2019年3月卒　部村 直保さん

食育授業風景

2018年5月にオーストラリアのウェラーズヒル小学校で、日本語バイリンガルプログラムに在籍する4年生児童に『野菜を食べて元気になろう』というテーマで2日間の食育授業を行いました。オリジナルの『食育かるた』などを活用しながら、クイズやグループワークを通して野菜・果物の特徴や栄養について楽しく学んでいただきました。

もともと英語が好きでSALC※を利用したり、海外インターンシップに参加したりしていましたが、今回の研修では児童に伝え理解してもらうための様々な工夫や、未知なことに挑戦する大切さを学べました。この学びを保育園の管理栄養士として働く上でも活かしていきたいです。

※SALC(サルク:Self-Access Learning Center)は、BECC(ベック:Bunkyo English Communication Center)内にある自律学修のためのフロア。

### インターンシップ「ベトナム・ハノイでの日本語学校勤務」

グローバルコミュニケーション学科3年　小沼 亜美さん

授業風景

12日間のインターンシップに参加しました。近年、ベトナムから日本へ働きに来る人が増えています。グローバル化が進む日本で働く上で、海外での就業体験がためになると思ったのが参加の動機です。

日本語学校で日本語アシスタントとして勤務し、事前に準備した教材を現地の先生方と協力しながら完成させ、授業ができたときには感激しました。

今回、日本とは異なる生活や文化を体験でき、人の優しさを改めて知ることができました。海外へ行く抵抗感も無くなり、またすぐアジアへのボランティアを計画しました。「海外へ行ってみよう!」と悩まず実行に移してよかったと思っています。

### 文教の“今”を発信中

本学ホームページ
https://www.h-bunkyo.ac.jp
広島文教大学　検索

広島文教大学が運営するWEBマガジン「cocorozasu」(ココロザス)

LINE@ × Bunkyo